**原則軸の意義**

《事務局での経験》

私が学校現場から広島県教育委員会事務局に異動になったのは平成８年４月で，当時の高校教育改革の推進を担当する教育委企画室（翌年に課の設置）という部署で，入試制度の改編，学校の統廃合，総合学科の設置推進などを担う部署でした。現在の働き方改革の動向とは全く次元自体が異なると言って良いほどの業務の量の大きさと質の高さが求められる部署で，執務フロアーにある応接セットで仮眠するだけで次の日の朝を迎えるということも何回もありました。

私の受けとめでは，木曽教育長のもとで推進されたこの高校教育改革の動きである総合選抜制度の単独選抜への移行，全国に例を見ない形での総合学科の複数校同時設置，学校の統廃合の推進などが，従前の広島県の教育状況を大きく変容させる序章であったように思っています。

《辰野教育長の教育行政の三則》

　この高校教育改革が大きなうねりのような動きで推進されつつある時に，本県教育界において教育内容面，学校の管理運営面で学習指導要領や法令・規則に違反する実態があるということが顕在化することとなり，平成１０年５月に当時の文部省から是正指導を受けることとなりました。激震が走ったと表現しても良いような事態でした。この是正指導の提示があった直後の７月に教育長になられたのが辰野教育長であり，着任に当たって示されたのがこの「教育行政の三則」です。

一 筋を通す

一 論より証拠

一 簡潔明瞭

　辰野教育長は，平成１３年６月まで教育長をされま

したが，その６月に文部科学省に是正の進捗状況の

教育行政の三則

報告書が提出されており，この期間が是正指導の山

場とも呼ぶべき時期であり，この苦しい山場を乗り

切ることができたことが，その後の本県教育の充実

の基盤となったと思っています。その意味で，運動論

的な動きや価値観が大きく怒涛の如く錯綜したこの

時期に「信頼される公教育の確立」を具現化し実態

化していく上で，まさに原則的な判断軸として格別

の意義を担ったのがこの三則だと思っています。

新しい世紀に向けて，広島県教育の新しい風景を現出させる基軸になった方針であったと思っています。

《校長としての三則》

　行政的な意味での職責の大きさに相違はあるものの多くの生徒の成長を預かる学校の校長にとっても，こうした原則軸が持つ意味は大きいものがあります。整理して職員に示すところまではしていませんでしたが，私自身も辰野教育長の三則を基盤にしながら自分なりに次の３点を原則軸において判断してきたと思っています。

**◇ 方向性の〔見える化〕　　◇ 根拠の〔見える化〕　　◇ チャレンジ・意欲の尊重**

学校を預かる校長として教育的なことを判断軸におくことも意義あることだと思いますが，私自身はその教育的な価値を実現する為の方策・手順に関することを判断軸においていました。学校事情，校長の個性等によって様々な判断軸があることと思いますが，それをより基本的・根幹的な判断軸とする〔三則〕のような形で整理したり明確にしたりしておくことは，意義が大きいことだと思っています。